

<株式会社エフエム東京 第 471 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 2 年 9 月 1 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 11 階 JET STREAM 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（4 名）

ロバート キャンベル 委員長 川上 未映子 委員
佐々木 俊尚 委員 松田 紀子 委員

◇欠席委員（2 名）

内館 牧子 委員 秋元 康 委員

◇社側出席者（9 名）

唐島 代表取締役会長
黒坂 代表取締役社長
西川 取締役副社長
小川 常務取締役
内藤 執行役員編成制作局長
延江 編成制作局ゼネラルプロデューサー
宮野 編成制作局次長 兼 編成部長
若杉 編成制作局制作部長
増山 編成制作局制作部チーフプロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 32 分）
TOKYO FM 開局 50 周年 メモリアルシリーズ Vol.1
『アイ・ラブ・ユー～僕はきみのラジオ～』
7 月 24 日（金・祝）12：00～16：55 放送

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■ TOKYO FM 特別番組『ねじれちまった悲しみに』が、
第 46 回放送文化基金賞 番組部門 ラジオ番組最優秀賞を受賞

TOKYO FM で昨年 2019 年 8 月 18 日（日）に放送した、特別番組『ねじれちまった悲しみに』が、「第 46 回放送文化基金賞 番組部門 ラジオ番組」において最優秀賞を受賞しました（2020 年 8 月 4 日発表、9 月 1 日贈呈式）。この番組は、『敗戦後論』をはじめ、一貫して戦後日本の「ねじれ」を指摘し、向きあい続け、昨年逝去した思想家・文芸評論家の加藤典洋氏の足跡に焦点を当てたドキュメンタリー番組で、小説家・小川哲氏が、加藤典洋氏と同学年の研究者で社会学者の上野千鶴子氏や、日本文学研究家のマイケル・エメリック氏との対話を通して、加藤典洋氏と戦後日本の「ねじれ」をたどりました。

「第 46 回放送文化基金賞 番組部門 ラジオ番組」最優秀賞の受賞を受け、番組に携わった小川哲氏、上野千鶴子氏から下記コメントが届きました。

<作家・小川哲氏>

かつて日本は他国に侵略し、多くの人々の命を奪いました。その結果、戦争に敗れ、平和憲法を制定しました。それ以来、僕たちは長い間「戦後」の中にいます。加藤典洋さんは、「戦後」という他人事のような概念を、どうにかして掴みとろうと考え続けました。

僕たちはこれからも、永遠に「戦後」を生きることになるでしょう。加藤さんの言葉を通じてこの事実について考えるという無謀な番組に、このような形で光が当たったことを光栄に思います。

<東京大学名誉教授・上野千鶴子氏>

加藤さんの訃報を聞いたとき、息が止まりそうになりました。この番組は加藤ラブに満ちています。それだけではありません。戦後のわたしたちの出発点にあった「ねじれ」を忘れてはならない、と警告しつづけた加藤さんを、わたしたちが忘れないために作られた番組です。

ふたたび巡る敗戦記念日の前に、この番組が受賞してうれしい思いです。

■TOKYO FM および JFN 系列 38 局の オーディオコンテンツプラットフォーム「AuDee (オーディー)」リリース

TOKYO FM と株式会社ジャパンエフエムネットワーク (JFNC) が運営してきたオーディオコンテンツプラットフォーム「JFN PARK」を全面リニューアルし、7 月 27 日 (火) に「AuDee (オーディー)」としてリリースいたしました。AuDee は、TOKYO FM および JFNC が制作する人気番組のスピノフオーディオコンテンツを始め、配信専用の「オンデマンドオーディオコンテンツ」、広告主のブランド向上とエンターテインメントを兼ね備えた「ブランデッドオーディオコンテンツ」がお聴きいただける他、番組発の記事コンテンツを含め、TOKYO FM と JFNC のデジタルコンテンツが集約されたプラットフォームです。TOKYO FM は、オーディオコンテンツ事業者として、放送のみならずデジタル領域においてもオーディオコンテンツを提供し、ブランデッドコンテンツによるビジネス拡大を戦略上の柱にしております。今後も、放送のみならずデジタル領域においても、オーディオコンテンツを主軸にしたエンターテインメントとビジネスを拡大してまいります。



◀アプリ画面イメージ

※人気アーティストのトークから、ラジオドラマ、ドキュメンタリーまで、300を超えるオーディオコンテンツを提供しており、月間 80 万人のユニークユーザーが利用。

【注目のインターネット用に特化した配信限定オーディオコンテンツ】

「TRUE CRIME アメリカ殺人鬼ファイル」



出演：大谷亮平、谷山紀章

アミューズ、AMUSE Group USA そして TOKYO FM の共同制作による、犯罪事件をテーマにした配信限定の特別音声番組です。毎回一人の凶悪犯罪者に焦点を当て、その事件のあらましを紹介しつつ、犯罪者の生き立ちや当時の社会情勢など事件が起きた背景を掘り下げます。

「東京カレンダーRadio」



TOKYO FM×東京カレンダーのコラボレーション！「東京カレンダーWEB」で連載中の 2020 年上半期 NO.1 人気コンテンツ「男と女の答えあわせ」から反響のあった 3 つのテーマを、声優の青木瑠璃子と岩崎諒太による豪華キャストでラジオドラマ化してお届けします。

「食べる RADIO」



食のエンターテインメントマガジン「dancyu」とのコラボレーションによるオーディオコンテンツ。「dancyu」編集長・植野広生が、毎回「気になる一つのメニュー」について、徹底的に語り尽くすグルメオーディオコンテンツです。豪華食いしん坊ゲストも続々登場！初回は、小山薫堂氏がゲスト出演中です！AuDee 配信限定で開始した「食べる RADIO」

は、AuDee で完全版をお聴きいただけるほか、編集版を TOKYO FM でも放送しています。

「30 日後にしまるとしまえん」



練馬区出身のつるの剛士が、長年としまえんで働いていた従業員や広告クリエイター、としまえん好き芸人・アルコ&ピース平子祐希氏などをゲストに迎え、としまえんの乗り物や歴史、広告、都市伝説などのお話を伺う、配信限定プログラム。8 月 1 日から、としまえんが閉園する 8 月 31 日まで、毎日更新いたします。

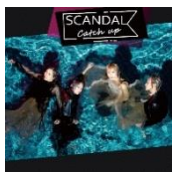
「RiCE RADiO～ほうたれ～」



声優・水樹奈々が、食文化の最先端を特集してお届けする季刊特別番組「RiCE RADiO～ほうたれ～」。AuDee でも、劇作家・根本宗子原作の短編作品「美味しいお芝居」のラジオドラマや、音楽プロデューサー小林武史とフードカルチャー誌「RiCE」の稲田浩編集長との対談のノーカット版といっ

た配信限定オーディオコンテンツをお楽しみいただけます！

「SCANDAL Catch up supported by 明治アポロ」



人気ガールズロックバンド SCANDAL が毎週メンバー全員でお届けしている配信レギュラープログラム。メンバーの近況はもちろん、番組に寄せられるメッセージにも幅広くお応えしています。SCANDAL の楽曲も聴ける AuDee 限定オーディオコンテンツをお楽しみください。

「伊藤沙莉の saireek channel」



ラジオ番組を持つことが夢だったという俳優・伊藤沙莉による、AuDee 限定配信プログラム。ファンの方のお悩み相談や歌を作ったりクイズに挑戦したりと何でもアリな自由な企画が満載！

【人気の FM 放送番組のスピノフオーディオコンテンツ】

「TOKYO SPEAKEASY」



東京の小さな本屋の奥に存在するバー「TOKYO SPEAKEASY」で、作詞家・秋元康が指名する噂の二人がトークする設定の「豪華対談番組」のアーカイブをオーディオコンテンツにて配信中。意外な組み合わせの豪華トークがいつでも、どこでも、何度でもお聴きいただけます。

「放課後 Perfume LOCKS!」



TOKYO FM/JFN で放送中の「SCHOOL OF LOCK!」で名物コーナー「ヒミツの研究室」を担当する Perfume 研究員が、AuDee で「放課後授業」と称してオリジナルオーディオコンテンツを配信中。毎回「生徒からのヒミツの相談」に応えながら、ここでしか聞けないトークを展開しています。

「GENERATIONS の GNENETALK」



LDH 所属の人気若手ダンスユニット「GENERATIONS from EXILE TRIBE」が出演するオーディオコンテンツ。メンバーの素顔のトークやレコーディングやライブの裏話など、ここでしか聞けないトークをお届けしております！メンバー7人が入れ代わり立ち代わり出演中。

「放課後 LiSA LOCKS!」



注目のアーティスト LiSA による AuDee 限定オーディオコンテンツ。ラジオの中の学校「SCHOOL OF LOCK!」で LiSA が講師を担当する「LiSA LOCKS!」と連動、このプログラム限定のリスナーメッセージを毎回ピック

アップ。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○『ねじれちまった悲しみに』には加藤典洋さんの肉声は入っているのか。

■入っている。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】

TOKYO FM 開局 50 周年 メモリアルシリーズ Vol.1

『アイ・ラブ・ユー～僕はきみのラジオ～』

【放送日時】

7月 24 日（金・祝） 12：00～16：55 放送のダイジェスト

【番組概要】

本日ご視聴いただくのは、7月 24 日（金・祝） 12：00～16：55 の 5 時間にわたり生放送した TOKYO FM 開局 50 周年 メモリアルシリーズ Vol.1 『アイ・ラブ・ユー～僕はきみのラジオ～』のダイジェストです。この番組は、1970 年に首都圏初の FM 局として産声を上げた TOKYO FM（開局当時は FM 東京）が、昭和～平成、そして令和と、貴重な蔵出し音源など、過去 50 年の間にお届けしてきた名番組を紐解きながら、これまでに築いてきた音楽文化の足跡をたどるメモリアルシリーズの第一弾としてお届けしました。

総合司会：

坂上みき（1990 年から 8 年間、午前 9：00～から放送していた『FM ソフィア』パーソナリティ）

住吉美紀（2012 年から現在まで同午前 9：00～のワイド番組『Blue Ocean』のパーソナリティ）

※★印が本日の視聴箇所になります

【12 時台 Grand Opening】 50 年クロニクル① 朝の生ワイド番組～あの日、あのとき

ゲスト：泉麻人氏・大橋俊夫氏

・「FM モーニング東京」（1980 年）、「FM ファミリー」（1990 年）、皇太子・雅子さまご成婚パレード中継の音源、東日本大震災当時の音源、「中島みゆき お時間拝借よ」、「ステレオ歌謡バラエティ」など、過去番組や中継音声を蔵出ししながら当時の振り返り

【13 時台】 50 年クロニクル② 50 年と FM 東京と “はっぴいえんど” と

ゲスト：泉麻人氏

★松本隆氏のインタビュー音源を蔵出ししながら、泉麻人氏と音楽史とカルチャーを振り返り

【14 時台】 50 年クロニクル③ ジャンルを超えたヒットメイカー松任谷正隆

ゲスト：田家秀樹氏 コメントゲスト：松任谷正隆氏

★松任谷正隆氏への取材音源とともに、ヒットメイカー松任谷正隆氏にフィーチャー

★1985 年の松任谷正隆氏、ユーミン、アシスタントの刀根真理子氏の蔵出しトーク

★松任谷正隆氏プロデュース「EARTH×HEART LIVE 2015」ユーミン×秦基博氏×JUJU
ライブ音源

【15 時台】50 年クロニクル④ ライブ番組と FM 雑誌

ゲスト：渡辺美里氏、田家秀樹氏

・渡辺美里氏、田家秀樹氏を生ゲストに迎え、渡辺美里氏の FM 東京での最初のレギュラ
ー番組「ひとつぶの青春」（構成担当：田家秀樹氏）の初回放送を蔵出ししながら、2 人の
出会いやこれまでの活動を振り返り

・1986 年 11 月 23 日に放送された渡辺美里氏のライブ音源を蔵出し

※渡辺美里氏がライブ音源を放送するのはこの時が初

・1987 年の佐野元春氏のライブ音源を蔵出し

【16 時台 Grand EndingOpening】50 年クロニクル⑤ 朗読劇とワイド番組～あの日、あ
のとき

★1980 年から 83 年まで平日の夜に放送していたハード・ボイルド・ラジオドラマ『マン
ハッタン・オブ』2020 年代バージョン『マンハッタン・オブ 2020～LOVE LETTERS
II』（作・演出 矢作俊彦氏 出演 國村準氏）

・坂上みき氏のインタビュー音源蔵出し STING、北野武氏、草間彌生氏、井上陽水氏

・『坂上みきの Beautiful』最終回（2006 年 3 月）サプライズ登場した山下達郎氏との対
談

・山下達郎氏蔵出しライブ音源

★TOKYO FM 開局 50 周年・記念詩「僕はきみのラジオ」 稲垣吾郎氏、坂本美雨氏に
よる朗読



◀左から：住吉美紀、田家秀樹、渡辺美里、坂上みき

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○この番組自体は 50 代～60 代が懐かしく聴けるようなターゲット設定だと思うが、周りの 50 代～60 代のラジオ好きの中で、あまり話題になっていなかった。何故話題にならないのか、TOKYO FM の WEB サイトを見ると、まずこの番組のコーナーが見当たらなかった。50 周年が目玉になるのだとしたら、しっかり WEB サイトを作りこんで紹介したほうがいいのではないかと思った。せっかく力を入れて作った素晴らしい番組が届かないのではもったいない。また、twitter でハッシュタグ検索をしたところ、アーティストファン以外の眩きが見つからず、50 周年自体が盛り上がっていないように見えてしまった。何か自分事化させるキーワードを仕掛けるなどした方が新しいファンへの広がりになるのではないかと感じた。

○5 時間というのがとても長く、今の時代 5 時間ラジオの前に居続けられる人はあまりいないと思うので、30 分の番組を毎日連続でシリーズのように流すなどするといいいのではないかと感じた。

○50 周年に関係なく、たまたまこの番組を聴いたという立場で拝聴したが、とても安心して聴くことができた。20 代の若者が聴くとまた違うのかもしれないが、40 代の自分はとても楽しんで聴くことができた。今回の構成でいいなと思ったのは、みなさんのトーンが落ち着いていて、内輪で盛り上がることなく、そこにリスナーのための時間がしっかりと感じられたこと。間があった。私たちに関係のないセレブの話になっていなかった。全体的には、ユーミンが歌詞について雄弁に語るのではなく、とても残る話をしていたのが印象的だった。個人的な思い出が多数のリスナーの思い出に繋がっていくいい番組構成だった。心地よい大人のラジオだった。

○一体ラジオとは何だったんだろう、と考えさせられる番組だった。出演していた主要な人たち、例えば松任谷正隆氏や山下達郎氏、総じて団塊の世代、1949 年～1953 年生まれ。TOKYO FM 開局の 70 年代は特異な時代で、日本でロックという音楽は 60 年代に存在しなかった。アメリカやイギリスにはあったが。60 年代の日本は歌謡曲・演歌でなければ、グループサウンズとかカレッジフォークしかなかった。これが 70 年代に入って一気にロックが入ってきて、これを誰が支えたのかというと、団塊の世代だった。戦後生まれで戦争を知らないと言われて上の世代からバカにされていた人たちが自分たちの音楽として熱烈に支持したの

がロックやニューミュージック、新しいフォークソング。何の根拠もないが、番組を聴いていて感じたのが、そういった文化を支えたのがラジオだったのではないかと思う。当時、吉田拓郎や中島みゆきなどテレビに出ないというのが売りで、ラジオを売りにしていた。ラジオとはそういうものだった。それがいつからそうでなくなってしまったのかと考えてみると、80年代にバブルになって92年に終わるが、その文化はもう少し後まで続いていた。音楽で言えばCDの売り上げの最盛期が97年とか98年で、ミリオンセラーが年間40枚くらい。今は年間3枚くらいだから10倍は違う。出版業界も同じ。ラジオはどうかというと、AMは80年代から下り続けている。さらに上の世代のメディアだったことが理由。FMはそれよりも後ろ、2000年くらいがピーク。その最盛期にメディアの人の感覚が少し狂ってしまった。売れば何でも売れた時代。その中で、パーソナルなものが置き去りにされてしまっていたのではないか。開局のキーワードが3000万人のパーソナルメディアとあったが、今でも十分通用する。バブル期では、あまりパーソナルなものは受け入れられず、社会全体が盛り上がっていた。マスではないけれど良いもの、マイナーなものが置き去りにされた90年代を今でも引きずっていて、そこにインターネットが台頭してきて、パーソナルな部分は一気にネットに奪われていき、決してマスにもなりきれなかったのがラジオや雑誌だったのではないか。本当だったらラジオや雑誌はもう少しパーソナルに立ち返る必要があったが、できないまま来てしまったのではないか。この特別番組を聴いて感じた。

○Youtube や Apple music もなかったから若い頃は新しい音楽は全てラジオから取り入れていた。現在は、新しいものを取り入れる導線がないと言われている。以前は「ぴあ」という雑誌にその週のニューアルバムが全て掲載されていた。それがなくなってしまい、今は好きなアーティストの曲を聴くだけという人も増えている。欧米ではプレイリストマーケティングが普及しているが、日本ではプレイリストで聴く人は少ないという。その理由は分からない。(マスではない)ミドルな位置づけとしてのラジオというのはまだまだ可能性があると感じた。

○坂上みき氏の声が素晴らしい。久しぶりに声を拝聴したが、本当に心地よい。ドキドキワクワクするトークだった。まだこれから4回あるということで、いろいろ叶えていって欲しい。とても秀逸な番組だった。最後のハードボイルドラジオはちょっとよく分からなかった。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「Ready Saturday Go」

9 月 26 日 (土) 6:00~6:40 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>